

講義名	教養特講（自己発見とキャリア開発）			授業形態	
担当教員	電谷 涼	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要

流通科学大学では4年間の教育課程の初めに「気づきの教育」を置いている。気づきの教育の目的は、自発的で積極的な行動を伴う多数の経験を通して得られる様々な「気づき」から、一人一人の「なりたいたい自分(夢の種)」を授け、それに応じて本学での4年間の学びをより充実させ、意義あるものにするにある。 「気づきの教育」の幹となる必修科目として「自己発見とキャリア開発A」を置いている。「教養特講（自己発見とキャリア開発）」は、「自己発見とキャリア開発」を未習得の学生に対して開講して、同様の教育目的を達成しようとするものである。この科目は2単位なので、「自己発見とキャリア開発A」(4単位)のうち、主要な要素について選り好み、同様の学習目的を達成しようとするものである。すなわち、大学での学びや社会に出てからの基礎となる能力について、気づいて向上させる、職や学び、ならびにその関連性について自らに即して気づく、それらを踏まえて、将来の夢や目標をつかみ、将来を見据えた「4年間の学びの道筋(キャリアビジョン)」を作成する。

到達目標

6つの基礎能力の必要性に気づき、自分の現状を知り、向上させることができるようになる。また今後の継続的な向上のきっかけをつかんでおり、向上し続けることができるようになる。(6つの基礎能力とは、「コミュニケーション力」「常識力」「グループワーク力」「気づき力」「創造力」「学び力」)
「職」「学び」「両者の関係性」について、自分自身に即して様々な気づきを得て、理解できるようになる。
様々な気づきに基づき、自分自身に即して考えた上で、自分自身の将来の夢や目標を持ち、将来を見据えた「4年間の学びの道筋(キャリアビジョン)」を獲得できるようになる。

提出課題

毎回の授業終了時に、その日の成果の概要をまとめて提出する。このほかに別途課題を出す場合がある。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

提出物については授業中に講評・解説する。

評価の基準

各プログラムへの取り組み姿勢と上記の6つの到達目標が達成されたかどうかによって成績評価する。
取り組み姿勢については取り組みの態度、積極性、真面目さなどで総合的に評価する。
到達目標が達成されたかどうかは、提出された成果物などで判断することになるが、取り組み姿勢が適切であれば到達目標が達成されるようなプログラムになっている。提出物には自らの気づきを十分反映させ、他者が見ても分かる充実したものにすること。
遅刻、欠席が多かったり、取り組み姿勢が適切でなければ、低い評価になったり、不合格になったりする。遅刻や欠席・まじめでない取り組み姿勢は、自分自身が損をするだけではなく、クラスやグループの他のメンバーに迷惑をかけることになるので避けること。
結局のところ、遅刻欠席をせずにまじめに出席して、積極的に各プログラムに取り組むことが、到達目標の達成に結び付き、高い評価を得ることにつながる。

履修にあたっての注意・助言他

この科目に不合格の場合、来年度、再度この科目を履修し修得する必要がある。「自己発見とキャリア開発A」の未習得者は、この科目と、さらに追加で数教科目6単位を、卒業までに修得する必要がある。この科目は1年次に修得することに意味があるから、早い機会に必ず、修得するようにしていただきたい。1年生後期の時間割では、学部や学科の重要な科目との重複は避けるようにこの科目が配置されているが、2年以降にまでこの科目を未習得で残っていると、重要な科目との時間割での重複が生じるなどして、4年間で卒業できないことにもなるので、注意すること。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.自己理解ワークブック.	福岡 侑美	金子書房	2200	4760826032
.経営・ビジネス心理学.	松田 幸弘編	ナカニシヤ出版	2500	4779512636

その他

資料類は基本的には授業時間に配布する。

授業計画

1. 科目の目的、アイスブレイク・イントロダクション
2. 自己発見・自己分析、コミュニケーション1
3. 自己発見・自己分析、コミュニケーション2
4. 大学生生活の充実1
5. 大学生生活の充実2
6. 将来の夢や目標、コース選び セミナビ
7. 人間形成とキャリア
8. キャリアビジョン1
9. キャリアビジョン2
10. キャリアビジョン3
11. 4年間の目標
12. 「まとめる力」と「考える力」1
13. 「まとめる力」と「考える力」2
14. 「まとめる力」と「考える力」3
15. 科目のまとめと振り返り

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="checkbox"/> A: PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> I: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="checkbox"/> O: ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> E: グループワーク
<input type="checkbox"/> O: プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> K: 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K: その他(A・L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

1回の講義について、学期ならびに文部科学省の大学設置基準においては、4時間の自己学習が必要とされている。
授業時間外の学習としては、ライフラインチャートの作成、企業研究、なりたいたい自分に向けての行動計画スライド作成などがあり、それぞれ数時間を要するが、随時授業中に指示をする。この他に参考動画や参考図書を示すので、できるだけ視聴し、閱讀していただきたい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の修得で、向上し続けることができるようになる6つの「基礎能力」と、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の6項目は次のように関連している。
「コミュニケーション力」「常識力」「学び力」の向上は「主体的な学びの心をもった人材」に繋がる。「気づき力」と「学び力」の向上は「知識を知識に転換することができる、論理的思考力を持った人材」に繋がる。「気づき力」と「創造力」の向上は「新しい視点と豊かな発想を持った人材」に繋がる。「コミュニケーション力」「グループワーク力」「気づき力」「創造力」の向上は「自主・自立の精神を持った人材」に繋がる。「コミュニケーション力」と「グループワーク力」の向上は「仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材」に繋がる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

常に学生間や教員と学生の相互啓発的な刺激の下で授業を行う。この意味でこの授業は基本的に双方向授業である。

実務経験の有無及び活用

備考

このシラバスは2023年2月に対面授業を前提として書いている。
発症・発熱して授業を受けることができない場合や、病気や慶弔など理由のある欠席などで受講できない場合には、別に課題を出すなどして対処する予定である。